

「海外で戦争する国」許さない 憲法破壊の「閣議決定」に抗議

安倍政権が1日、集団的自衛権の行使容認にむけた閣議決定をしたことに對し、党鶴岡市議団は同日夕方、市役所前で街頭から「海外で戦争する国づくりは許せない。憲法破壊の閣議決定に反対する国民・市民が立ち上がり、暴走政治を食い止める決意の日にしよう」と呼びかけました。

憲法9条を破壊

安倍・自公政権は、自衛隊発足以来60年にわたり憲法上許されな



集団的自衛権の行使容認の閣議決定に抗議する党市議団 (7/1市役所前)

いとしてきた集団的自衛権行使に関する政府解釈をひっくり返し、行使は可能とする閣議決定を強行しました。

国民的な議論も国会でのまともな審議もなく、一片の「閣議決定」なるものでクーデター的に政府解釈を覆し、憲法9条を破壊する空前の歴史的暴挙です。

「新たな戦前」の始まり

安倍晋三首相の動きを止めなければ、7月

1日が「新たな戦前」の始まりの日になってしまします。

2006年に誕生した第1次安倍内閣時に教育基本法を改悪し愛国心教育を導入しました。

防衛庁を「防衛省」に格上げし、国民投票法を成立させ、改憲への下準備に手を付けました。

12年12月に第2次安倍内閣が発足し、首相を含む4人の大臣が外交と安全保障政策の「司令塔」となる国家安全保障会議(日本版NSC)設置法と特定秘密保護法を強行しました。

そして、第1次内閣にできなかった「大東亜戦争」を賛美する靖国神社への参拝をおこないました。

日銀総裁、内閣法制局長官、NHK経営委員などの人事に介入し、自分の意に沿う仲間を周りを固め、解釈改憲にのめり込んできました。

「戦争への道」を食い止める

閣議決定を前後して数万人の怒りの抗議行動が首相官邸を取り囲んでいます。

国民的な反撃へ、世論と運動をもっともつと大規模に広げ、そして安倍首相が続ける限り、各地の選挙で自公候補者を次々惨敗させ、「戦争への道」を食い止めることが急務です。

鶴岡市議会では

鶴岡市議会6月定例会最終日の30日、議員発議で「集団的自衛権の行使容認に反対する意見書」が提案され、関徹議員と今野美奈子議員、田中宏議員の3人が賛成討論し、新政クラブの尾形昌彦議員と政友公明の中沢洋議員が反対討論をおこない、下表のとおり、賛成少数で否決されました。

27日の本会議には「治安維持法犠牲者の国家賠償を求める意見書提出の請願」の採決がおこなわれ、加藤太一議員と田中宏議員が賛成討論し、新政クラブの齋藤久議員が反対討論をおこない、賛成少数で不採択とされました。鶴岡市議会が、平和と人権を求める市民の願いから大きくズレており問題です。

2014年6月議会 賛否が分かれた議案 (○賛成 ●反対)

	市民クラブ		無		日本共産党		政友公明		新政クラブ																							
	石井清則	今野美奈子	渡辺洋井	佐藤峯男	加賀山茂	小野由夫	田中宏	関徹	菅井巖	加藤太一	秋葉雄	富樫正毅	中沢洋	岡村正博	佐藤文一	上野多一郎	尾形昌彦	五十嵐一彦	小野寺佳克	佐藤博幸	佐藤久樹	菅原一浩	本間信一	佐藤聡	本間新兵衛	野村廣登	齋藤久	今野良和	神尾幸	五十嵐庄一	渋谷耕一	
集団的自衛権の行使容認に反対する意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
治安維持法犠牲者の国家賠償を求める意見書提出の請願	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
バイオ産業誘致のため北部サイエンスパークの用地取得	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鶴岡市立幼稚園条例の廃止	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

鶴岡市は7月1日から子ども医療費が
中学3年まで完全無料化になりました

前号のJA庄内たが
わ役員の訂正：関係
者にお詫びし下記の
通り訂正します。

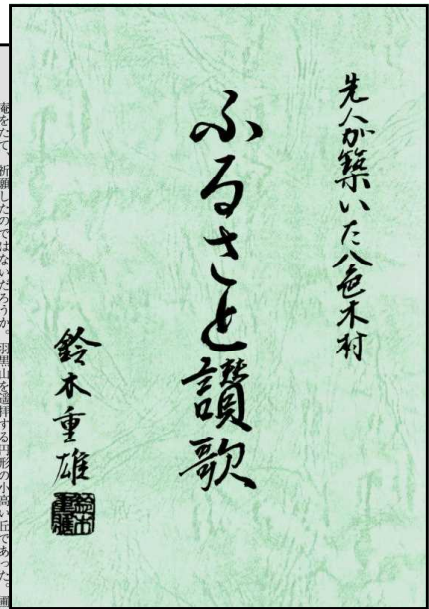


代表監事 坂清一
(長沼字中組)



常勤監事 佐藤 準
(庄内町余目)

故郷人・重雄さんの『ふるさと讃歌』を読む



先人が築いた八色木村

ふるさと讃歌

鈴木重雄

村表 皇太神社周辺

人間も植物と同じで、陽表側に発達するのが自然で、村の南側に住宅が増えている。村の入り口付近、又右門さんの柿畑の隣に、国旗掲揚台と庚申札や神社札を貼った柱が立っている。少し村寄りには庚申塔があった。子供の抱癖や麻疹（ハシカ）送りをここで行う。



さん依に赤い梵天を立て、あずき一飯か赤飯を供えて、「生一度の疫病も無事平癒しました」と、感謝の報告とく末の健康を祈願するのである。この庚申塔は、平成十年皇太神社大改修の際に神社境内に移された。国旗掲揚台も終戦時に境内の撤去で

鈴木重雄（八色木）さんは米寿を迎え壮健で好々爺、記憶力に優れた博識の健筆家である。すでに自著『私の知る農協今昔』『四季の今昔』と多くの共著を世に問うている。今回『ふるさと讃歌』の贈呈を受けた。

100頁ほどの冊子だが、ふるさとのすべてがぎっしり詰まっている。最後に「南州遺訓・（…）人生到る処青山あり」「石川啄木・（ふ

るさとの訛なつかし…）」「兎おいしかの山…忘れがたき故郷」などの故郷を思う詩・歌を載せている。ふるさととは何だろう。私は所詮人であると思つて

若者たちに、「嫌中」「呆韓」「恥韓」「ネトウヨ」など反中韓風潮

—「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇

しんぶん赤旗6月22日付「潮流」によると、

いる。不思議に思われる方もおられようが…。

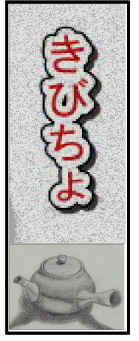
目次を見てみよう。八栄島・八色木・豊栄の村々、堰、河戸、学校、寺社、農業と農協などの諸組織、店等などで、すべて人がつくり人と多様で豊かな関わりをもつもので、それぞれに喜怒哀楽の人間模様が描かれている。三右工門、茂助、勘右工門、海藤徳右工門、豊女ばあさん等多数の人々が登場する。

これらのものを身体中に仕舞い込んでいて、この冊子を書いた重雄さん自身が、「故郷人（ふるさとびと）」で、ふるさと八色木そのもののような気持ちになった。『故郷人讃歌』だ！読み終えて率直にそう思つたのである。

「嫌中」「呆韓」「恥韓」と、中国、韓国を罵詈雑言する本が若者に読まれ、日本に不都合なことは中韓の謀略宣伝だとする風潮があるといる。翌日同紙に「昔ネトウヨ（日本の戦争は正義の戦争だった）とするネット右翼の人だった」22歳男性の告白が載っている。マスコミによつて、「韓国や中国ってなんか嫌だよね」という根拠のない嫌悪感・差別感が増えているという。

戦争中小学生だった私は、「センジン」（朝鮮人）、「チャンコロ」（中国人）、「鬼畜米英」などと学校や大人たちの口込みで身体に漬け込まされた。朝鮮人は濁音の発音が苦手なのに乗じ、「ビール半ダース」「サブローはコバカ」と言えと三郎君に強制的に。泣きながら頑張つても「ビール半タース」「サブローはコバカ」としか言えない、こうして囃しいじめた。先生も「チャンコロはコ

口だから、コロコロ殺せる、お前は兵隊になつたら何人殺せるか」などと煽つた。人種差別・人種嫌悪の拡張は、戦争指導者の使う常套手段。このような風潮は断ち切らねばならない。同紙6月26日付「ひと」欄は、「政府間関係は悪くとも一般市民は仲良く」と、北京で日中の交流会を開いている中国人・陳聞瑾（ぶんきん）さんを紹介している。



首相の記者会見

24日の夜、今国会が終わつたからと首相の記者会見という時間がテレビにあった。記者達が待機する所まで関係者が居並ぶ中をサツソーと壇上へ行く首相。

▼それから12〜3分、息もつかせずというか何も見ることなく、記者に気を遣つてか与党の一方の空気がよいか、右へ左へと顔を配つては今国会の実績をシャベツタのだ。

▼今国会、私達にはイヤなもの多いんだが、自分の実績だから何も見なくてもシャベレルわな、と思いつながら見ていたんだがヨ。

▼記者から質問を受けます、質問者は所属と氏名を言つてから聞いて下さい、ということになって答えることになつたトタン、首相は書いた物を読みだしたではないか。ナンダ、コレ、になるだろう。

▼質問事項がチャンと先に取られて、その答えを誰かが準備して書いていたんだ。今までシャベツタように実績に合せてシャベレバ書いたものを読む必要はないんだし、今聞かれたことが書いてあるわけないんだから。

▼それに加えて、会見が終わらないのに2人の質問が終わつた時を区切って隣の解説員がシャベル段取りになつていたんだ。これ何なんだ。

▼この流れを見れば会見自体がNHKのやらせ番組にならないですか。堂々と自分の実績としてシャベツタのも誰かが書いて、2日間暗記してきたとしか思えないでしょう。

▼だから私は、解説員の話は聞かなかつたというか見なかつた。

▼ヤダネー。こんな番組。番組作るのに俺の金も入つてるんだぜ。

（石川）



北京で日中の交流会を30回開催
ぶん さん (32)
きん 瑾 さん
ちん 陳 さん

北京に暮らす日本人と中国人に出会いの場を提供する「伊菜夏・日中交流会」を主宰。開始1年で30回を数えます。2002年9月、領土問題をめぐり中国全土で反日デモが起り、日中関係は最悪の状態に陥りました。その時に100人近くが参加。餃子を作ったり、ゲームをしたり、郊外でバーベキューやお花見をすることもありま

す。参加者の笑顔が絶えず、国境を超えた友達作りの場になっていきます。2002年9月、領土問題をめぐり中国全土で反日デモが起り、日中関係は最悪の状態に陥りました。その時に100人近くが参加。餃子を作ったり、ゲームをしたり、郊外でバーベキューやお花見をすることもありま

しんぶん赤旗6月26日付